

＜メディアウオッチ＞ヤジ事件 これ幕引きならメディアの責任は重大

2014年6月25日 上出 義樹

名乗り出た自民党都議は議員辞職をせずに居直り

東京都議会でみんなの党の塩村文夏^{あやか}議員（35）が質問中に、「早く結婚した方がいい」などとセクハラ・ヤジを浴びせられた問題は、質問から5日たった6月23日、自民党の鈴木章浩議員（51）がヤジの発言者であることを名乗り出た。鈴木議員は会派の離脱届けを出したが、都議の辞職については全面否定。このままだと、別のヤジの主も特定されないなど、うやむやのまま幕引きが図られようとしている。

北欧の記者「自分の国ならすぐにクビ」

今回のヤジ事件は、米CNNテレビや英ロイター通信、英ガーディアン紙など欧米のメディアも次々に報道し、海外にも波紋を広げていることを受けて塩村議員が24日、東京・有楽町の日本外国特派員協会で記者会見。女性の社会的地位が高い北欧の記者は「自分の国なら、性差別の発言をした議員はすぐにクビ」「同じ党の議員が発言者を公にし、メディアも厳しく非難するだろう」と、日本との違いを強調した。

自民党の横暴と驕り^{おごり}を許さぬためにも問われるメディアの「本気度」

日本のマスコミも、居直りを決め込む鈴木議員やそれを許す与党を一応、批判しているが、安倍晋三政権の暴走政治同様に都議会でも数の力で押し切ろうとする自民党の横暴ぶりには案の定、抗しきれていない。23日付拙稿の繰り返になるが、世界に大きく後れを取る「日本の恥」と、やり放題の自民党の驕りを許さないためにも、ツイッターなどSNSをはじめとするネットの発信力アップとともに、報道各社の「本気度」があらためて問われている。

（かみで・よしき）北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程（新聞学専攻）在学中。